

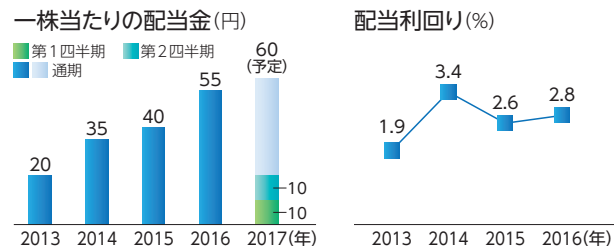


■会社概要 (2016年12月31日現在)

社名 株式会社構造計画研究所
 英文商号 KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
 設立年月日 1959年5月6日
 資本金 1,010百万円
 決算期 6月
 上場市場 東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)
 事業内容 エンジニアリングコンサルティング
 プロダクツサービス

■株式の状況 (2016年12月31日現在)

発行可能株式総数 21,624,000株
 発行済株式総数 6,106,000株
 株主数 3,006名



(注) 当社は2017年6月期(59期)より、四半期配当制度を実施しております。

■株主メモ

事業年度 7月1日～翌年6月30日
 基準日 6月30日
 定時株主総会 毎年9月
 株主名簿管理人
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)

公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL <http://www.kke.co.jp>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

●HPのご案内●

「投資家情報」より、IR情報をご覧いただけます。



<http://www.kke.co.jp/ir/>



環境に配慮した「ベジタブルインキ」を使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

ステークホルダーの皆さまとKKEをつなぐ
KKE : REPORT

59期(上半期)

2017年6月期(上半期) (2016年7月1日～2016年12月31日)

大学、研究機関と実業界をブリッジするデザイン&エンジニアリング企業



日本 海王丸と新湊大橋



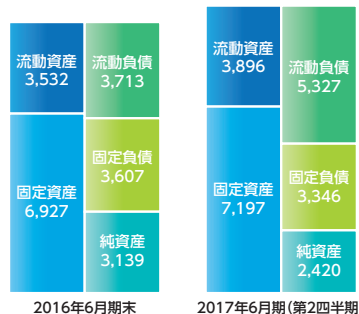
第2四半期累計期間の業績

当第2四半期累計期間の当社の業績は、売上高は39億85百万円(前年同期は36億72百万円)となりました。主に住宅業界をリードするトップ企業からの差別化に向けた投資に対応するシステム開発業務や、構造設計コンサルティング業務、設計者向けCAEソフト、統合型粒子法流体解析ソフト、クラウドベースのメール配信サービスなどの販売が好調に推移しました。営業損失は7億64百万円(前年同期は4億99百万円の損失)、経常損失は8億13百万円(前年同期は5億29百万円の損失)、四半期純損失

は5億75百万円(前年同期は2億86百万円の損失)となり、前年同期と比較して増収減益となりました。その主な要因としては、大型不採算プロジェクトによる影響のリカバリーに時間を要していること及び、マーケティング活動の活性化と将来に向けた投資としての研究開発による販売費及び一般管理費の増加が挙げられます。一方で、受注残高につきましては、前年同期を上回る69億39百万円(前年同期は67億21百万円)を確保しており、年度末に向けて着実に事業活動を行っております。

■ 四半期貸借対照表

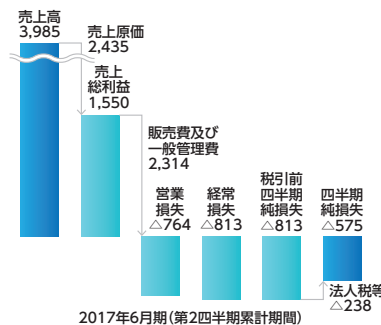
(単位:百万円)



☑ 前事業年度末に比べて、流動資産は10.3%増加し38億96百万円、固定資産は3.9%増加し71億97百万円となりました。また、負債合計は18.5%増加し86億73百万円となり、純資産合計は22.9%減少し24億20百万円となりました。この結果総資産は、前事業年度末に比べて6.1%増加し、110億93百万円となりました。

■ 四半期損益計算書

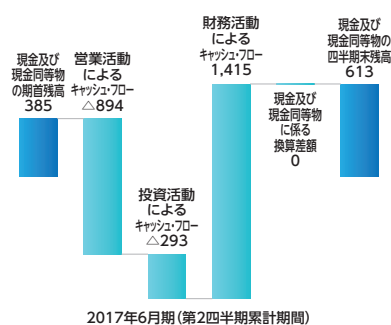
(単位:百万円)



☑ 当第2四半期累計期間の当社の業績は、売上高は39億85百万円、営業損失は7億64百万円、経常損失は8億13百万円、四半期純損失は5億75百万円となり、売上高、利益は前年同期と比べ増収減益となりました。一方で、受注残高につきましては、前年同期を上回る69億39百万円(前年同期は67億21百万円)を確保しており、年度末に向けて着実に推移しております。

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)



☑ 営業活動によるキャッシュ・フローの減少は8億94百万円、投資活動によるキャッシュ・フローの減少は2億93百万円、財務活動によるキャッシュ・フローの増加は14億15百万円となりました。今後も将来を見据えた事業開発投資は積極的に行っていく予定です。



■ 四半期貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当第2四半期 (2016年12月31日現在)	前事業年度 (2016年6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	3,896	3,532
現金及び預金	613	385
受取手形及び売掛金	729	1,402
仕掛品	1,477	990
その他	1,076	754
固定資産	7,197	6,927
有形固定資産	5,092	5,077
無形固定資産	447	313
投資その他の資産	1,657	1,536
資産合計	11,093	10,460
(負債の部)		
流動負債	5,327	3,713
買掛金	307	312
短期借入金	2,650	750
1年内返済予定の長期借入金	436	443
その他	1,933	2,206
固定負債	3,346	3,607
長期借入金	1,388	1,740
退職給付引当金	1,813	1,755
役員退職慰労引当金	40	40
資産除去債務	37	31
その他	66	39
負債合計	8,673	7,321
(純資産の部)		
株主資本	2,397	3,134
資本金	1,010	1,010
資本剰余金	1,279	1,279
利益剰余金	2,275	3,078
自己株式	△2,168	△2,234
評価・換算差額等	22	4
純資産合計	2,420	3,139
負債純資産合計	11,093	10,460

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 四半期損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当第2四半期累計 (2016年7月1日から 2016年12月31日まで)	前第2四半期累計 (2015年7月1日から 2015年12月31日まで)
売上高	3,985	3,672
売上原価	2,435	2,083
売上総利益	1,550	1,588
販売費及び一般管理費	2,314	2,087
営業損失(△)	△764	△499
営業外収益	3	3
営業外費用	52	33
経常損失(△)	△813	△529
特別利益	—	2
特別損失	—	0
税引前四半期純損失(△)	△813	△526
法人税、住民税及び事業税	4	4
法人税等調整額	△242	△244
四半期純損失(△)	△575	△286

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当第2四半期累計 (2016年7月1日から 2016年12月31日まで)	前第2四半期累計 (2015年7月1日から 2015年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△894	△1,806
投資活動によるキャッシュ・フロー	△293	△193
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,415	2,367
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額	227	367
現金及び現金同等物の期首残高	385	316
現金及び現金同等物の四半期末残高	613	683

「KKEらしさを引き継ぎ 未来の可能性を世界に」

経営体制とガバナンスの強化を図るため、
当社は新たな取締役2名と社外取締役(独立役員)を1名選任しました。
当社のビジョンと未来像について、新任取締役同士で語り合ってもらいました。



社外取締役(独立役員)

本荘 修二

SHUJI HONJO

プロフィール●1987年ボストンコンサルティンググループ入社後、1995年CSK経営企画室マネージャーを経て、1998年本荘事務所代表(現)、2009年多摩大学大学院客員教授(現)就任後、2016年当社社外取締役兼独立役員就任。

取締役兼常務執行役員

木村 香代子

KAYOKO KIMURA

プロフィール●1984年入社。1995年創造工学部室長就任後、2001年21世紀プロジェクト評価ビジネス技術担当部長、2003年創造工学部長、2006年執行役員、2012年常務執行役員を経て、2016年取締役兼常務執行役員就任。

取締役兼執行役員

郭 献群

XIANQUN GUO

プロフィール●1991年入社。国内外の超高層ビルを中心とした数々のビッグプロジェクトに携わり、2007年上海駐在員事務所所長、2014年執行役員を経て、2016年取締役兼執行役員就任。

KKEのDNAを体現してきた 経験を活かす

—— はじめに、取締役就任までのご経歴をお聞かせください。

木村 1984年に熊本構造計画研究所が開設されましたが、私はその一期生として入社しました。その後新設された創造工学部に異動し、多くの企業のマーケティング戦略立案の支援やシミュレーションによる社会的課題解決のプロジェクトに携わってきました。現在は、社会デザイン・マーケティング部、創造工学部、オペレーションズ・リサーチ部、および人事企画室の担当役員と、全社的な役割として産学官連携推進と機会均等推進を担当しています。

郭 1991年に入社しました。以来26年間構造設計部門に在籍して、国内外で注目された数々の大型のプロジェクトの設計を担当しました。2007年に上海駐在員事務所長に就任し、現在では、上海駐在員事務所と構造設計1部、構造設計2部を管掌しています。

本荘 2016年に社外取締役兼独立役員として就任しました。構造計画研究所とのご縁は、新規事業開発のサポートからです。サポートを始めた頃は、いくつも驚くことがありました。ルーツである構造設計技術の深さ、専門性はもちろん、それ以外の分野についても社会やクライアントの要請と所員個々の知的好奇心から、事業領域を次々と拡大しています。まだまだ企業規模やキャッシュ・フローでは小粒ですが、夢を体現することができる会社だと思います。

—— これまで取り組んできたことや成果をお聞かせください。

木村 当社は、モノを販売して利益を得る会社ではありませんので、所員一人ひとりが十分に能力を発揮して価値を産

み出すことが重要です。それ故、これまでの担当部門では様々な視点から個々人のモチベーションを上げ、能力が発揮できる環境を創ることに注力してきました。新たに担当となった人事企画室ではより全社的な視点で、評価制度の再構築、所員の成長機会の提供、多様な働き方の検討に取り組んでいます。

郭 構造設計部門では、先輩たちが築いてきたプロフェッショナルエンジニアリングファームとしてのプライドや取り組む姿勢といった、古き良き伝統を継承していきたいと考えています。さらに新しい技術や知見に対しては、チャレンジャーとして積極果敢に取り組んでいきたいですね。また私は、当社で初めての外国籍取締役ですから、今後採用される外国籍の社員のロールモデルになると自覚しています。また、エンジニアリングには技術や科学だけではなく、ベースとなる人間性も大切です。多種多様な文化や価値観を束ねて、クライアントの意向や要求に添えていく。これもエンジニアリングの重要な仕事です。当社のダイバーシティチームでこのような仕事に取り組んでいきたいですね。

本荘 社外取締役の任務は、適切に会社が経営されるように監視とアドバイスをすることが基本です。当然ですが、企業経営に100点満点はありません。さらに環境も激動していますので、その中で経営の進化や事業のステップアップといった課題に、適切に取り組んでいくことが重要です。そのための外からの視点による助言が、これまで以上に求められていると実感しています。また、私の専門性の1つとして、多摩大学で新事業開発を教えています。脈々と流れるルーツ(本業)の発展とともに、ディシプリンの効いた新事業開発で新たなチャンスを捉えるサポートもより一層注力していきます。

産業界と実業界をブリッジする
エンジニアリング企業として

——「Innovating for a Wise Future」というソートを実現する展望をお聞かせください。

木村 当社は、目指したい未来像として「Innovating for a Wise Future」を掲げています。また企業理念として「産業界と実業界をブリッジするエンジニアリング企業」、「プロフェッショナルデザイン&エンジニアリングファーム」を掲げ、さらには創業50周年を機に会社の良き風土や他企業にない特色などをまとめて「KKWAY」を創り、社内外に当社のように発信し続けています。これらの中にはKKEならではの共通した普遍的な価値観が盛り込まれておりますので、そこに込められた真意と本質を所員が理解し、未来像に向かってチャレンジし続けてほしいと思います。

本荘 KKEの特長は知価創出です。昨今では、人工知能が仕事を奪うといった、新たな技術に対する恐れも話題に上るようになりました。しかしKKEでは、そのような恐れは全くなく、新しい技術に対する大学や研究機関との連携を積極的に進めてきました。日本社会は先が見えない課題を持った状態ですが、KKEが知価創出企業として、近未来の会社の新たなモデルとなることができるでしょう。

郭 現在の社会は効率性が重視された結果、様々な面で分業化が進行しています。このために、全体像を俯瞰した本質的な課題が見えなくなっていることが散見されます。このような社会課題に対して、今後は当社がもっているポテンシャルを活かせるのではないかと考えています。非常に繊細に分業化された個人やチームのコンフリクトを解消するイノベティブな解決方法を模索していきます。このような業際的な取り組みが「Innovating for a Wise Future」につな



がると考えています。

——現在の担当分野で、これから取り組むべき課題は？

郭 構造設計部門では、法規や基準などを基にして形式的な業務に入り込みやすい傾向があります。私は、それでは新たな価値は生まれないと諸先輩から教わってきました。今は世代交代し、私が諸先輩になり変わり、社内に発信していかなくてはならないと実感しています。そのためには構造設計部門だけではなく、解析技術部門や意思決定部門などの高度なシミュレーション技術などと連携して、スマートでイノベティブなものを提案していきます。また上海駐在員事務所は、中国におけるビジネス拠点となるべく、人脈づくりやローカル企業との関係構築にも注力していきます。

木村 私が担当する創造工学部やオペレーションズ・リサーチ部、社会デザイン・マーケティング部は対面する業界も提供するソリューションも幅広く、多くの可能性を持っていると思いますが、お客様にその価値を伝えることが難しいというジレンマを抱えています。技術だけではなく「人」としての魅力で惹きつけ信頼関係を構築できることが重要です。これ

は全社会的な課題でもあると思いますので、全社会的観点でリーダーの育成に取り組んでいきたいと思っています。

本荘 人は表面的な短期の数字を追いがちですが、当社の場合は長期的な事業の発展に目を向けていただくことが大切です。そのための人材の育成と活性化は、課題よりもっと大きな経営上のテーマですね。さらに会社としてゴーイングコンサーン、長きにわたり継続するパブリックカンパニーとして発展していくことに努力をしなければなりません。

——最後に株主の皆さまへメッセージを。

木村 当社のIR方針として、株主の皆さまに信頼していただき期待に忠実に応えていくためにも、きちんと成果が出てからご報告することにしていきます。そのような会社の姿勢をご理解いただき今後もご支援をお願いできればと思います。

本荘 研究開発のつぼみの段階ではなく花が咲くぞという段階でお知らせしますので、楽しみにしていただきたいです。

郭 社員一人ひとりが自覚をもって、着実に社会的な価値を持つ成果を生み出していただきたいと思っています。引き続きご支援いただければ幸いです。

KKE Vision 2016を
東京と福岡で開催しました

KKE Visionは、より良い社会の実現に向けて、様々な取り組みを多くの方々と共に共有する場として、当社が2002年から続けているイベントです。今年は、東京のみならず、昨年新しい支社を開設した福岡でも開催いたしました。

来場者数: 725名



森本氏

>>> 2016年10月26日(水)
@虎ノ門ヒルズフォーラム

東京の基調講演では、テレビのコメンテーター等でも著名な森本敏氏に世界情勢と日本の今後についてお話しいただき、自国やビジネスの観点だけに留まらない広い視野での世の中の動向を理解する機会をいただきました。

来場者数: 275名



合原氏

>>> 2016年11月29日(火)
@グランドハイアット福岡

福岡の基調講演では、昨年の東京基調講演に続いて合原一幸先生に登壇いただき、数理工学が世の中にどう役立てられるかについてお話しいただきました。

東京、福岡ともに、各トラックテーマが、当社が現在力を入れているテーマと重なっており、当社のことを知っていただく良い機会になったのではないかと思います。

また、今年は大掛かりな展示を企画し、好評いただきました。

特に「地震ザブトン×VR」は、福岡でテレビ取材を受けたり、その後社内展示を行うなど、地震シミュレーションの新しい表現を広げた展示として注目を集めています。



地震ザブトン